

会 議 録

1 会議名

令和 6 年度 第 6 回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的な審議（公開）

- ・自主的な審議事項について

3 開催日時

令和 7 年 2 月 12 日（水）午後 6 時 30 分から午後 7 時 52 分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第一会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員：池亀委員、市川委員、上野委員、太田副会長、崎田委員、瀧本委員、
田中会長、田邊委員、原委員、本多委員、山田委員、山谷委員、
吉田(実)委員、吉田(義)委員、渡部委員 （欠席 4 名）

- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、鈴木主事

8 発言の内容（要旨）

【井守副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【田中会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・挨拶

【井守副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【田中会長】

- ・会議録の確認：太田副会長に依頼

次第3 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

- ・資料に基づき説明

【田中会長】

ただ今の説明について、質問を求める。

(発言無し)

質問が無いようなので、春日区の将来の強み（理想や期待）をカードに記入後、各委員から発表してもらう。全員の発表後に意見交換をする。

【崎田委員】

春日区は歴史と自然があるととてもいい場所だが、そこを回る交通手段がない。私が直江津方面に通っていた時はバス一本で行けたが、イオンなどができたことで「〇〇経由」のようなバスが増えて、たくさんの場所を経由してしまう。その不便さは観光客には分からない。長岡や会津若松にもあるが、市内巡回バスはどこで乗っても料金が一緒で、山手線のように一周する。そういう交通手段があると、観光客はとても動きやすくなる。

【上野委員】

春日区を安全安心な地域にしたい。中学生、小学生も対象となるが、安全安心なまちについて今後、具体的に協議していきたい。前回の強み、弱みを考えても、安全安心なまちづくりができる地域だと判断できる。

【市川委員】

春日山城跡を中心に観光づくりを目指していて、予算も付いている。春日山城跡を主とした地域の宝を中心に、観光地域にしたいと考えている。

【池亀委員】

この地区は史跡が非常に多いが、なかなか活用できていない。春日地区に観光拠点を整備されるとよい。具体的には、史跡広場に広大な土地が空いていて、文科省の許可がないと開発できないとのことだが、一昨年に法律が変わり、観光資源に使うのであれば開発ができると聞いている。しかし、なかなか進展しない。具体的に何が必要なのか。やはりバスや車で来る観光客を対象にするには道の駅だと思う。道の駅を整備して、史

跡広場の広大な土地にいろいろな施設を設置し、活用していけたらと考える。

私は以前からいろいろな会議で道の駅の整備を提案しているが、市議も県議も動いてくれない。ぜひ皆さんの意見を伺いたい。

【田中会長】

子供や高齢者がたくさんいる春日区で、市役所を中心としたコミュニティバスが方々に運行される未来を考えた。例えば、100 円のコミュニティバスが市役所から春日山城の方や駅に向かって、まちを縦横無尽に走っていくような未来の予想を立てた。

【太田副会長】

春日区は人口が多く、人材も豊富なので、やはり上越の中心になれる地域だと思う。

子供も多いので、中心になるには、中学生、高校生がもっと活発にいろいろな活動をし、三世代交流ができるような場所ができればと思う。他の地区にも三世代が交流できる場所はあるが、子供食堂というよりも、みんな食堂のような形で、子育て世代のお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんも集まって、ざっくばらんに話をして、コミュニケーションができるような場ができ、にぎやかな春日区になってほしい。

【渡部委員】

私は将来、高齢者が一人でも安心して住める春日区にしたい。そのための強みは、非常に活動が多いこと。弱みは、一人暮らしの高齢者が災害時に不安になること。1 月 1 日の地震で町内の防災部で巡回したとき、高齢者が怯えて逃げて行った。テレビで「逃げろ」と言うから逃げたが、ハザードマップでは、春日区は津波の心配がない地域なので、7 人ぐらい引き止めて、家の 2 階に上がるように伝えた。一人暮らしの高齢者は心配になると思う。安心して住みよい地域になることを望む。

【吉田(義)委員】

昔は自宅でちゃぶ台を囲んで食事をしながら、家族でいろいろなことを話し合った。こういうつながりのある社会が望ましい。

町内や市の行事などの情報を紙面で見ると、新聞を取らない方が多くなっている。若い人はスマートフォンで情報を得るが、高齢者は地域で今どういう行事が行われているのかを耳で知りたい。広報活動において、災害だけでなく、地域に特化した行事の内容を流してほしい。例えば、木田は今日こういう行事をやっているなど、今やっていることを発信することによって、聞いた人が自分のニーズに合えば、子供や大人が即参加したいということが起こるのではないかと。そういう雰囲気づくりを目的に私は動いている。

情報が入らないと、閉じこもり、疎遠になってきて、集まりもできなくなる。

【吉田(実)委員】

・春日山観光のインフラ整備

道路や駐車場が観光客を呼べるような状況ではない。きちんと整備し、観光客を呼び込む。市民自身も楽しみである。

・災害に強いまちづくり

能登半島地震の反省をいかし、各地域、町内の自主防災体制の整備が必要だ。

・高齢者の生きがいくくり、やりがいくくり

去年、老人会に入会したが、全ての活動が止まっている。木田や大豆では非常に活発に活動をしているので、そういうところを見習い、高齢者の生きがいくくり、やりがいくくりが健康年齢を上げる一つの原動力になると考える。

前期の地域協議会では、春日山観光に関して市に意見書を提出した。そのために検討し、現地見学を行い、資料をまとめたことを今期の委員にも伝えたい。この地域協議会の財産となった。春日山の杉を伐採するとあるが、春日区地域協議会からとおそらく春日山城跡保存整備促進協議会の提案から行政が動き出したといえ、一つの成果だ。土塁の復元なども提案している。そういうものをさらに上積みして、皆さんと知恵を出し合い、さらなる春日山観光の振興を図っていきたい。財産である資料をオープンにして、今期委員の知識を深めてほしい。

防災に関して、防災士である市川委員はいろいろな知見があり、過去の上越地域の地震や水害などの事象をご存じである。委員にまずインプットして、その中での問題点を出していくなどという手法もある。この地域協議会は、前半は勉強するべき。いろいろな知識を付けてから、皆でディスカッションをする。今は何となく集まってディスカッションしているように見える。この1年はいろいろな分野について、レクチャーしてもらい、もっとスキルアップして、次元の高い、質の高い協議ができればと思う。

【山谷委員】

期待としては、全ての方が住みやすい地域として、子供たちや元気な高齢者もそうだが、認知症の方が外に出て歩いても、皆で見守れる、自由にいられる村みたいな感じを望む。人数が多いからこそ、皆で見守ることができる。

【山田委員】

どこの地域もそうだが、高齢者が増えているので、もう少し自由に入れる介護施設が

あるとよい。

また、上杉謙信公の居城「春日山城」の復元。予算もかかるので、計画的に 10 年後の予想図のようなものが見たい。

【本多委員】

この春日地区には、素晴らしい「春日山」という宝がある。もっと活発にアピールできたらよい。この地区には元気な高齢者が多い。春日山に関して知見のある方もおり、そういう方から意見を挙げてもらいたい。その後は、市や県の力が大事になる。それと並行して皆さんと協議しながら進められればと思う。

【原委員】

謙信公祭が強みである。今年は 100 回目ということで、どんなイベントもそうだが、相当パワーがなければ 100 回も続かない。それだけ地域の人たちの気持ちが入っているから続いてきた。そもそも上杉謙信公は、戦国時代の中でも非常に特殊な人で、弱肉強食の時代の中、「義」という言葉で考え方を前面に出して、弱い者を助けに行った。そういう武将は他にはいない。だから検証する価値がある。そういうこともあり、謙信公祭が続いてきたと思う。検証していく中で、地域に住んでいる人たちも、自分たちはそういう人の活躍した地域に今住んでいるというコミュニティ的な部分、横のつながりという部分も出てくるかもしれない。だから、観光だけクローズアップするのではなく、住んでいる人たちにもフィードバックするような事業になればいいと考える。

【田邊委員】

木田に市役所ができた時、春日地区にお店など、いろいろ施設ができて市街化が進むと思っていた。転勤で 20 年近く関東にいたが、帰ってきてても全く変わっていなかった。春日地区がもっと市街化されるような施設等を作り、住みよい場所になればと思う。

【瀧本委員】

春日山をいかしてほしいという想いは、今までの意見で全部出た。

今、春日小学校では春日山の学習をしていて、中学校でも「土の一袋運動」などの活動をしている。小中学校に関わっている委員にお聞きしたいが、地域の方をいかすということで、何か依頼をしているのか。例えば、畑の先生などで、高齢者の知恵をいかせないか。昔は回覧版に「こういう人を求めています」というのが載っていた気がする。今も学校では載せているのだろうか。それで手を挙げてくれる方がいればいいが、遠慮する方もいて、なかなか引っ張り上げられないのではないか。アピールできるとよい。

中学校は何か求めているのか。何か考えた方がいいのではないかな。

【田中会長】

今までの発表について、質問を求める。

何人かの委員から、観光がもっと盛んになってほしいという意見があったが、市の観光事業に私たちが意見することはできるが、住民の機運をもっと盛り上げるために、何か必要なのではないか。機運が高まるような施策はあるか。観光に尽力されている、吉田実委員の意見を伺いたい。

【吉田(実)委員】

謙信公祭を例にとれば、地元の人たちが、昔から企画や運営に携わっている。私も昔は実行委員であり、高校生の頃も武者役をやっていた。これはやはり地元の手づくりの祭りであり、立派なこと。行政頼みではなく、各地で地元から協賛金を集めて、地元が主体となって開催している。各町内会長が運営されている。これも立派なこと。

私は以前、武者隊で小田原、東京、高崎の観光キャンペーンに何回も行った。この春日山を宣伝に行くことも非常に大切。今の春日山のあり方を考えて、杉を伐採しているが、道路や駐車場、お土産売り場、ビジターセンターのようなものをきちんと整備していく方向性とスケジュールを組んで計画的に進めないといけない。今まで、上越観光コンベンション協会等がフィールドミュージアム構想を立ち上げたが、何も実行計画がなく消滅した。そうではなく、実行ベースで考えていくことが非常に大切で、その中にこの地域協議会も参画していけば素晴らしい。

【田中会長】

町内会長が町中を盛り上げる役割を担っているとお聞きした。現町内会長でもある市川委員の意見を伺いたい。住民の皆さんが謙信公祭を楽しみにして盛り上がり、見に行く機運があるのかないのか。町内会長として苦勞しているところがあると思う。

【市川委員】

どの町内会も謙信公祭の参加者を集めるのに苦勞している。今の若い人は全く考えが違い、祭りをよく知らない。個人的には動くが、集団で動くとなると非常に線が細い。

春日山の通年観光では、吉田実委員が言われたことが問題点と考えている。魅力創造課を中心に説明会が行われているが、計画は年次計画で、2027年頃から予算を付けるので、会議の中では全然見えてこない。文化行政課や文化庁などが絡んでいるので、即、実行に移せない。私は今、献納米合戦の責任者をやっているが、中学生が出てこなけれ

ば全く参加者がいなくなる。去年も7チームぐらいだった。以前は上正善寺、中正善寺、下正善寺、新光町三丁目、石橋など、昔の春日村の中で行っていたが、今は金谷地区と直江津地区に分かれたので、なかなか3地区の統制が取れない。急に声をかけても参加してくれない。今年は100回目だから早めに声をかければいいというが、本当に町内会長は苦勞している。

【田中会長】

先ほど、謙信公祭は100年続く素晴らしい祭りと言われた原委員に、住民の盛り上がりに対しての意見を伺いたい。

【原委員】

個人個人の意識の中では、「なぜ」という感じになる。確かに上杉謙信公も知っているし、春日山もそこにあるのは知っているが、自分とは関係ないと言われる。多様化の時代と言われればそれまでだし、押し付けるわけにもいかないが、学習してもらい理解してもらうところから始まると思う。私もここへ移住してきたときは、謙信公の講師の第一人者である花ヶ前盛明先生の話聞いて学習し、その上で祭りに参加するなど、地区の役員の時には協力して続けてきた。地元住民の気持ちがないと、そこまで至らない。そのきっかけをどのように作るかというのが大事だと思う。

【田中会長】

謙信公祭の前に太田副会長が中学校で講演されているが、中学生に対して場を盛り上げるのに、どのように伝えているのか伺いたい。

【太田副会長】

謙信公祭の実行委員を20年以上務めている。私が小学生から社会人になるまでは、昔の春日山の駅前通りで民謡流しをして、地域の祭りという形で謙信公祭が開催されていた。自分の親だけではなく、親世代の姿を見て「カッコいい、ああいう大人になりたい」という思いが、実行委員会に入ったきっかけである。その姿を見て、中学生ながらに「大人はカッコいい」というところがあったので、その部分を今の中学生に伝えて、継承できればという思い。40年近く前の話なので、それが今できるかというとなかなか難しいが、そこを止めてしまうと伝えることもできないので、地道に子供たちに、上杉謙信や謙信公祭の良さと、地元で100年続いている祭りで、今はまだ中学生で何もできないかもしれないが、いずれは背負っていつてもらいたいと伝えてきた。私も君たちぐらいのときは、大人の背中を見て、カッコいい大人になりたいと思ったことを伝えている。

やはり今は、子供たちの参加者確保も難しいというところで、子供たちの関心がないのではなく、学校の先生によっても、地元の祭りに関心のある一生懸命な方と、祭りまで小・中学校でやらなければならないのかと思う方とで温度差が出てくる。この地域に来たからには、謙信公祭に関わるのが当たり前で、難しくすごく大変だというイメージではなく、地域の軽い気持ちで一緒に何かやってもらえるような形にしていければと思う。本当に町内会長や町内の役員には、参加者を集めたり、裏方の人材を集めてもらったりと、いろいろなところで協力してもらっているので頭が上がらないが、そういう協力がないと、この祭りも続いていかない。私も実行委員の一員として感謝しながら、子供たちにもその姿を見せて、何か心に伝えられればと思い活動している。

【崎田委員】

謙信公祭のスタッフは、市の職員と実行委員の方がやっているのは分かるが、町内会はその程度、関わっているのか。土橋町内会からは、1人か2人しか参加していない。人数が足りているのか知りたい。

【市川委員】

町内会の大きさが異なるので、一概に役員の出し方は決まっていないが、大体、各町内で12から13人の動員が割り当てられている。役によって武者行列の時の給水や、川中島合戦の再現でのかがり火の見張り、民謡流しの役員など、各町内に要請されている。1人、2人ではない。役員はおそらく町内の理事や役員が中心になって出ている。町内会長は2期4年やると大体交代し、役員も1期2年やれば代わるというところもたくさんある。終わった方からあまり協力を得られない、次に役員になった人がしっかり引き継がないという、スムーズにいかない面もある。

【吉田(義)委員】

私が子供の頃の直江津祇園祭は、子供が中心になって行った。子供の数が少なくなってきたからは様子が少し変わってきているが、100回を迎える謙信公祭については、家族でも祭りの話題はあまり出てこない。盛り上がる雰囲気もコミュニケーションもあまりない。町内会にいるときは役員を中心に、一生懸命盛り上げることはする。子供たちに小学校で頻繁に謙信公の話が出るのか聞くと、シーズンの時にしか話が出ないとのこと。まず子供たちをいかに惹きつけるか。子供会を育てていないし、少子化の中で継続することは非常に困難。まずはPTA、町内会、学校で子供たちに地域の祭りは大事だと教える。そういう環境を作っていく。地域も協力できるような体制ができていないため、

盛り上がらない。他の地区、米沢ではどうか。上越市と比べて同じ謙信公でも動きが全然違う。上越市は市民が盛り上がるような環境が整ってない。根本的にコミュニケーションが取れるような体制を作ることが大事と考える。

【田中会長】

未来を想像したときに、未来は子供たちが作ってくれる。その発言をされた山谷委員は、未来に向かって、子供たちがどのような春日区に住んでいてもらいたいと思うか。

【山谷委員】

子供たちは成長していく。保育園から小学校、中学校、高校に行き、大学に行く人もいて、他の地域で就職をするかもしれない。でも、こういうお祭りがあったとか、帰ってきて就職したいとか、そういう魅力的なところがあり、子供たちが帰って来られる地域であるといいと思う。

【田中会長】

子供たちにとって魅力的な春日区にするには、どうすればよいか。就職先が無く、観光もさえないなどの悪いことばかりではなく、ここに暮らしたくなるようにするには、どうするべきかと考えるか。

【山谷委員】

就職先が無いのは問題。私が観光によく行く地域には、お店や魅力的なカフェがあり、買い物ができる。そういう環境であれば、子供たちや親も楽しくなり、お金も落としてくれる。そして、認知症の高齢者が近所を歩いても大丈夫な雰囲気になる地区が理想だと、最近すごく考えている。

【田中会長】

認知症の話が出たが、瀧本委員が近所は高齢者ばかりで心配なことが弱みと言われたが、それを逆転する強みにできるような案はあるか。高齢者が未来に向かって、高齢だからもう駄目だとならないような案はあるか。

【瀧本委員】

先ほど高齢者の介護施設の話があったが、大豆にあった施設が、先日無くなってしまった。そんな中で期待や希望として、高齢者の介護施設はあった方がいいと思う。

【池亀委員】

私は、保育園に高齢者のサロンが併設されるとよいと考える。保育園児と高齢者が一緒に遊ぶ。飲み物や軽食を出してもいいと思う。保育園児と高齢者の交流の場を作るの

が大事。今、保育園は春日保育園と大曲こども園と高志こども園があるが、お金が許すのならば併設して、保育園児と一緒に遊ぶようなサロンがあるといい。

【太田副会長】

子供が最近まで東京で生活していた。東京はもちろん便利だが、春日地域はお店が少なくても、山麓線や謙信大通りの幹線道路があり、バスも走っている。春日山駅もあるから、いろいろな所に行きやすいと言っていた。いろいろな不満要素は解決できないし、ここにずっと住んでいると車社会になるが、春日区は必ずしも不便だという訳ではない。

【吉田(実)委員】

春日区は生活環境として悪くない。病院もあり、にぎわっている飲食店もある。それを強みとしていろいろ展開することは可能だが、その中に潜んでいる、特に高齢者、空き家、独居高齢者宅の見守りが大変。負の遺産である空き家をどう活用するか。前期の柿崎区では、空き家対策を行う組織を立ち上げた。それを参考にしてもいい。

先ほどのサロンは、社会福祉協議会が春日謙信交流館で月 1 回か 2 回開催している。本当は、町内会単位で会館を使ったサロンができることが理想。元気な高齢者が集まり、健康寿命を延ばしていければいいが、その世話役であるリーダーがいない。リーダーの育成に行政も多少は補助をしなければいけない。今、上越市は観光に投資することとなったが、高齢者福祉への予算の有効活用を図らなくてはならない。私も先ほどのサロンの案は賛成。その議論を進めたら面白いと思う。

【渡部委員】

直江津や高田の商店街ではプレミアム商品券を発行しているが、春日区にはメリットが無い。謙信公祭はいつもの行事なので、特にメリットを感じない。私は会場の草刈りを担当しているが、祭りを見に行く気にはならない。謙信公役が変わると見物客が増えるぐらいだ。小田原城の祭りに骨董市があり、非常に面白かったので、提案したことがある。出かけたくなるような魅力が無い。直江津や高田のプレミアム商品券のようなものを春日区はなぜやらないのか。チェーン店が多いからかもしれないが、春日区に来るメリットがあまり無い。それから、一人暮らしの高齢者でも安心して住める地域が理想。強みは、ここは非常に活動が多く、近辺の交通の便も良い。

【渡邊係長】

今日の意見は「将来的にこうだったらいい」という形で受け取り、整理したい。

【田中会長】

他に意見はないか。

【吉田(実)委員】

谷委員が活動していた「いきいき春日野ふれあいコンサート」について、他の委員は理解しているのか。定期的に健康にいいことや文化的なことを行うサロンだと思う。春日区で素晴らしい活動されていて、それを他の町内に水平展開されるのを願っていた。そういう活動を参考に勉強会を開催するべき。

【渡邊係長】

次回、いきいき春日野に限らず、「令和7年度地域独自の予算事業」を活用する予定の団体について、事務局から概要を説明する予定。

【吉田(義)委員】

協議の進め方を分かりやすく提示してもらいたい。

【渡邊係長】

前回の資料No.1を参考にさせていただきたい。また、現在保留となっている研修の「地域の声を聞く」については、町内会や団体からの意見聴取も予定している。

皆さんの話の展開が広く、内容を整理していくと、話の持って行き方が都度変わっていくので現時点でゴールを示すことは難しいが、このまま進むと課題が抽出できると考えている。委員からは大事な意見がたくさん出てくるので、今あるスケジュールに捉われずに臨機応変に進めていく。

【太田副会長】

前期では、3つの柱を決め、そこに向かって進めたので具体的な話ができしたが、今はどこに向かっているのか分からないから、煮え切らないのではないかな。

【吉田(義)委員】

そのとおり。

【太田副会長】

他にもそう考えている委員がいると思う。事務局としては、新しい委員が加わったことで、まずはこの地域を知り、地域の強み、弱みを抽出して、テーマを探していくというふうの説明しないと分かりにくいのではないかな。

【渡邊係長】

委員から複数の意見が挙げられることは想定している。問題を整理し、課題の抽出をしたら、解決すべき課題の優先順位を整理する。その後に課題について協議する。ここ

からが協議の本番となる。

【田中会長】

今は、何に向かっているのか分からないという意見も、もちろん理解できる。春日区の強み、弱みに対し、皆が同じ意見ではないことも知りながら、その目標に向かっていく方がいいと解釈して進んでいる。進め方について別の意見があれば、伝えてほしい。

他に意見はあるか。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で次第3議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第4その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【井守副所長】

- ・ 次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・ 次回の地域協議会：3月12日（水）午後6時30分から
上越市市民プラザ 第1会議室（予定）

【田中会長】

ただ今の説明について、意見を求める。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で次第4その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第4その他の「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

(無しの声)

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。